

# 「こんな してます。」

## わだいのしゅう

— 127 —

### ガソリンスタンドがない！

閉鎖するガソリンスタンドが増えているようです。

ハイブリッドカーの普及で需要が少なくなった、設備投資がペイできない、など経営難の原因が様々にありますが、自動車が生活上必須の山村ではガソリンスタンドの消滅は死活問題です。

ここ数年、山村でも自活できる方法について、和太の中島先生（環境生態学）、塚田先生（情報通信学）、北大の揚妻先生（動物生態学）と筆者（地域社会学）がチームを組んで共同研究を行っています。先日、その研

究の中間発表会を平井区の集会場で行いました。その時に行った簡単な住民アンケートに印象に残った次のようなコメントがありました。

この地域は美味しい空気と水があるのみ。特に不便なのは、ガソリンスタンドが営業しなくなった事だ。和太と北大の力でガソリンを販売してほしい。

古座川上流部の人々が利用していたガソリンスタンドが最近閉鎖し、「ガソリンを入れるために下流の町まで片道1時間も走らなければいけない」と住民の方は嘆きます。給油のために

# 女神の電気軽トラ

ガソリンを消耗しながら走る、笑い話のようですがこれが地域の実態です。和太や北大の力でガソリン調達は難しいですが、方法はあります。

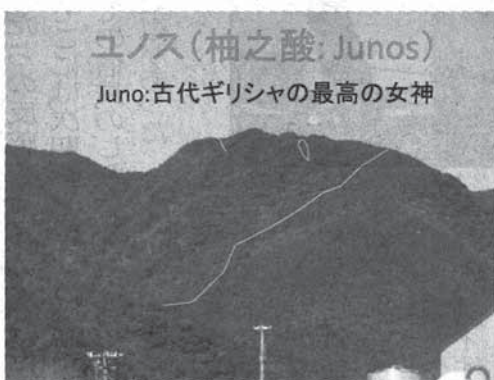
## 自前で暮らす方法

当日は、災害時に電気や通信が途絶えた時にも役に立つ自然エネルギーを活用した自律的な通信網の開発や地域づくりの方法について報告しました。

掲載した絵は、農水省が「未来の農村の姿」として職員が教材用にしていた資料



図. 近い将来の農村



実験場の山(線は描画)

ユノス(柚之酸 Junos)  
Juno: 古代ギリシャの最高の女神

を参考に筆者が作ったものです。農業用水路を活用した小水力発電から軽トラや農業機械に充電しています。山から切り出した間伐材を運び出し、バイオマスエネルギーにするため地域の温泉場に運んでいます。畑ではソーラーパネルの下で耕作をしています。電気と農業の両方から経済を生むことができます。山上には地域を巡る情報通信設備を設置しています。この絵は地域の自然資源を活用しながら農林業を営み生活する姿を描いています。

電気自動車はすでに実用化されており、ガソリンスタンドがない山村ではとても有効に思われます。しかし、充電のために、従来の電気を使うのはどうでしょうか？ ガソリン依存は減っても電気需要が増え、結局原発に頼ることになる矛盾が起きています。太陽光発電の普及など、現在では売電利益を目的にされるユノー(Juno)と特産ゆず酢、地元の方言「ゆるのすう」に引っかけ、平井は女神のいるユズの里だとの話題になりました。私たちの実験場である北大研究林尾根がちょうど横たわる女神の横顔に似ていると揚妻先生の強引とも言える解説に話は弾みました。

位でできるとも聞きませんでした。販売もされています。農村の未来の絵は決して未来ではありません。しかしこのような村の姿が実現できないのは何が問題なのでしょう？ 今後の研究課題です。余談ですが、平井区の特産ユズの学名は Citrus junos. ギリシア神話で最高の女神とされるユノー(Juno)と特産ゆず酢、地元の方言「ゆるのすう」に引っかけ、平井は女神のいるユズの里だとの話題になりました。私たちの実験場である北大研究林尾根がちょうど横たわる女神の横顔に似ていると揚妻先生の強引とも言える解説に話は弾みました。

女神に守られた山村で、以前のエネルギーで農林業を営み、電気軽トラや耕作機が燃料の心配なく動き、山の木で沸かした熱い湯に入る…。

私の夢は、こんな山村をピンクの電気軽トラで走り回ること。まだ新年ですから笑って聞いてください。

## プロフィール



湯崎真梨子 (ゆざき まりこ)  
和歌山大学産学連携・研究支援センター 教授  
専門は、農村社会学、地域再生学。自らが研究するだけでなく、地域と大学が共に成長するプロジェクト研究をコーディネートしている。